

## [研究会報告]

## 何故 Community-based MNCH が必要か？

明石 秀親<sup>1)</sup>、岩本あづさ<sup>1)</sup>

1) 国立国際医療研究センター

## 要 旨

2015年までの世界的な目標としてミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs) が掲げられており、その MDG 4 (Reduce child mortality) と MDG 5 (Improve maternal health) が母子保健に関わることは広く知られている。また 2005 年の WHO 総会の頃から、MCH (Maternal and Child Health) に N (Neonate) が入るべきという声が高まり、現在では MNCH と略されることが多くなった。これは、医学雑誌 Lancet のシリーズ (以下、Lancet) でも示されたごとく、小児の死亡率が世界的に下がり始めた中で、依然、早期新生児の死亡が高いことにもよる。一方、妊産婦の死亡は期待通りには下がっていないことから、2015 年の MDGs 達成が危ぶまれているのも事実である。しかも妊産婦の死亡は、仮に出産直前まで妊婦健診等で正常と判断されていても、分娩開始後に初めて問題が起きるケースもあることから、新生児と同様、出産直前・直後の死亡が多いことが予想され、実際に Lancet でも産後 1 日目から 7 日目までの死亡の多さが際立っているという事実が示されている。

出産そのものはどこで行われているのかと言えば、開発途上国の地方に行けば行くほど自宅分娩が多いと考えられ、Lancet によれば、妊産婦死亡は地方 rural で多い状態である。つまり、出産前後の適切なケアも含む地域 community での取り組みが、妊産婦や、新生児を含む小児の健康改善のみならず、妊産婦死亡や新生児死亡を下げるための key となると思われる。しかしながら効果的な取り組みが見つかるかどうかは、未だに明らかではない。

それではその課題に対して、現在までにどのような取り組みがなされてきたのだろうか。また今後私達がなしえる最善の策とは何か。このセッションを通して、MNCH に関するコミュニティーでの取り組みに何らかの突破口が見つかれば、それは日本が世界に発信できる重要なメッセージとなるはずであると考え、本ワークショップが企画された。

キーワード：ミレニアム開発目標、地域、母性・新生児・小児保健、新生児死亡、妊産婦死亡